

2021年4月21日  
日本銀行横浜支店

## 神奈川県金融経済概況（2021年4月）

### I. 概況

神奈川県の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している。

輸出は持ち直している。設備投資は、一部に投資先送りの動きがみられるものの、全体としては持ち直している。雇用・所得環境は弱い動きとなっている。個人消費は、基調としては徐々に持ち直しているが、サービス消費を中心に下押し圧力が強まっている。住宅投資は弱い動きとなっている。公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。こうした中、生産は持ち直している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

### II. 実体経済

(1) 輸出： 持ち直している。

- ・ 中国向け原動機、半導体製造装置などが増加しており、持ち直している。

(2) 生産： 持ち直している。

- ・ 素材関連は、持ち直している。
- ・ 輸送機械は、乗用車・同部品やトラック・同部品が、国内外での在庫調整進捗などから、持ち直している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、持ち直しつつある。
- ・ 電気機械は、持ち直している。

(3) 設備投資： 一部に投資先送りの動きがみられるものの、全体としては持ち直している。今後の推移については、新型コロナウイルス感染症の影響に注意する必要がある。

- ・ 21/3月短観における設備投資の20年度実績見込みは、競争力強化に向けた研究開発、インフラ、物流関連投資などがみられるものの、前年度の大型投資の反動や一部製造業の収益悪化に伴う投資の先送りから、前年度を下回っている。21年度計画は、競争力強化に向けた能増投資などから前年度を上回る計画となっている。

(4) 雇用・所得環境： 新型コロナウイルス感染症の影響から、弱い動きとなっている。

- ・ 21/2月の有効求人倍率（就業地別）は、前月から横ばいとなった。21/1月の常用雇用者数と名目賃金は、前年を下回った。

(5) 個人消費： 基調としては徐々に持ち直しているが、新型コロナウイルス感染症の影響から、サービス消費を中心に下押し圧力が強まっている。

- ・ 百貨店売上高は、引き続き弱い動きとなっている。
- ・ スーパー、ドラッグストア売上高は、底堅く推移している。
- ・ 家電販売額は、持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、持ち直している。

《参考》

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響から、下押し圧力が強まっており、県内の宿泊施設および観光施設の利用者数は大幅に減少している。

(6) 住宅投資： 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、弱い動きとなっている。

- ・ 21/2月の新設住宅着工戸数は、持家が増加したものの、貸家、分譲マンション、分譲戸建てが減少したことから、全体では前年を下回った。

(7) 公共投資： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 21/3月の公共工事請負額は、独立行政法人等、都道府県などが減少したものの、国、市町村などが増加したことから、全体では前年を上回った。

### Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出：引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けは住宅ローンを中心に増加している。法人向けは運転資金需要の高まりがみられている（貸出金末残前年比：21/1月+4.3%→2月+4.1%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、緩やかな低下傾向にある（月末貸出約定平均金利：21/1月1.053%→2月1.051%）。

(2) 預金：引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：21/1月+8.9%→2月+9.0%）。

以 上

---

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。